

日本あちこち河川遡行記（第 313 回）

大阪 4-2-1. 松尾川 令和 2 年 2 月 13 日（木）曇り後晴れ

大津川水系最後の遡行に出かける。春のような陽気で春の身支度で出発する。2 日前には雨の予報であったが朝のうちに雨が止みホットする。阪和線で何時もの時間に和泉中央駅に着く。今日のダイヤは正常である。すっかり中国系の旅行者が減った各駅はイササカ寂しそうだ。観光だけでなく製造業、商業にも影響が出だし、他力本願のしっぺ返しが始まっている。



01.今回調査区間位置図（黄色部）

今日も電動アシスト自転車を借り松尾川が牛滝川に合流する近くに向かう。合流点近くの 2 橋は牛滝川遡行時に調査済みなので 3 番目の橋「小栗橋」から開始する。松尾川の左岸側を下流に向かうと阪和線の手前に「小栗橋」が川を越えている。1 径間だけの斜張橋で、こちら側の主塔が若干そっくり返っている。イナバウアーの反りが少し足りないぞー。橋際にこの橋の名前の元になった「小栗街道」の解説板が有る。イササカ故事付けが気になるが信じましょう。



02.「小栗橋」は単径間斜張橋の歩道橋 03.橋名の元になった「小栗街道」の解説が

歩道橋を右岸側に渡ると熊野街道起点の簡単すぎる地図が有る。熊野街道の起点が大阪天満橋の近くだったというのを初めて知る。ホンマかいな！黒線と茶線が何を示しているのかさっぱり分からないな。

右岸側を上流に向かい漕ぎ出すと目の前に合流点から **0.3km** の距離標識が立っている。二次支流にまで距離標が有るでないでが！



04.熊野街道の起点はここだったのか 05.橋の際には 0.3km の距離標識が

土手の上の道を右に左にとジグザグに進む。和泉府中市を流れる川が一旦岸和田市の外れを流れる所に架かる「郡界橋」の親柱には橋名の謂れが、反対側の柱には川の詳細な説明が書かれている。親柱にこの手の解説文は誠に珍しい。天晴れ！天晴れ！橋の東側の和泉府中市寺田町はかつての泉北郡に、西側の岸和田市摩湯町は泉南郡に有り、その両町境が郡界だったのだ。



06.「郡界橋」の親柱は解説柱だ



07.松尾川の解説は反対側の柱に

南に小山が現れ多くの送電線が丘に集まっている。平地部から丘陵部に差し掛かる。



08.丘の上に高圧線は集合！

右岸側を快調に進み橋際で後ろを振り向くと「箕形町」のだんじりの保管庫が立っている。歩きなら気づくのだが自転車では見逃しかねない。

更に南に進むと今度は対岸に「唐国町」の蔵が現れる。町毎に本体と蔵を競っているようだ。川沿いは昔からの住民が住んでいるので町と祭りへの愛着がニュータウンの住民とは違い濃いのだ。



09.「箕形町」のだんじりの車庫が



10.次は「唐国町」が登場

やがて阪和道の PC ラーメン箱桁橋が川を越える地点に着く。これで三度目の阪和道で、牛滝川と同じ形式の橋である。阪和道の両側にくっ付いている府道をうろうろしながら見て川沿いの道に戻る。すぐに今度は「内田町」の蔵が建ち、どれもこれも同じ佇まいで特徴が無いな。



11.阪和道の橋は牛滝川と同じ橋種だ



12.地車保管庫で今どこに居るか分かるぞ

次から次と橋が現れ、「儀与門橋」、「露ヶ華橋」、「四十分橋」、「無常橋」と称する曰くが在りそうな橋名が出て来る。やがて川が途中で二手に分かれる地区にやって来る。大川（旧淀川）が「堂島川」と「土佐堀川」に分かれる中之島のミニミニ版である。



13.川は二手に分かれここで合流



14.こちらが分流点、ミニ中之島ヤ

分流部から上流は河川公園になって遊歩道も整備されている。「久保惣橋」に来ると桁が全面カバーに覆われ橋種が分からない。鋼桁なら塗り替えが生じるのでカバーを付けると外す手間がかかるのと、桁高さから PC 橋としておく。耐風設計でもないのにカバーまでつける必要は無いのだが・・・。



15.全面カバーに覆われ橋種不明やないか

右岸側の遊歩道を進むと斬新と言うかけたいな橋が架かっている。桁をコンクリートのアーチで支える下路橋で、桁とアーチ部の間を左右 2 本ずつのケーブルが張られている。歩道の両端部からケーブルが橋の真ん中の上空のアーチに逆 V 字状に繋がっている。

近づいてアーチコンクリートを見ると、縦方向に多くの小さなクラックが発生している。この構造ではアーチに横方向の引張が発生するのだがその力に対する配慮が欠けていたのかも知れない。歩道の中央から真上にケーブルを張っておればアーチには圧縮力しか生じないのに、この形式にしたいのなら鋼製アーチにするべきである。



16.「蠟梅」の向こうに珍妙な橋が



17.アーチのコンクリートにはひび割れがイッパイに

府道 230 号の「和泉春木橋」を越えると川はミニ溪谷状となり台地の間の高低差が大きくなる。河川改修工事中で川沿いの道が通行不可となり、橋を見ると一旦東の府道へ急坂を登り、次の橋で府道から下り再度登ることを繰り返す。徒歩ではこんなことはやってられないが、電動アシスト自転車なのでパワー全開にすれば難なく急坂を上がってくれる。

39 番目の「追込橋」を見て、本日はここまでとしてハンドルを反転させ帰路につく。川近くの府道 226 号を北に向かって漕ぎ出すと下り坂が延々と続き、アシストなどはイリマシェン！途中手打ち蕎麦の店があったのでコンビニサンドは夕飯に廻して美味しい蕎麦を食べることにする。泉州で今週は蕎麦を食して終わる。

本日の輪行距離：19.1km。調査した橋の数：39。

総歩行距離：10,813.9km。総調査橋数：14,146

使用した 1/25,000 地形図：「岸和田東部」（和歌山 10 号-1）